

名古屋大学大学院多元数理科学研究科
平成30年度教育・研究活動
年次報告書

令和2年1月

名古屋大学大学院多元数理科学研究科

(5) 授業時間割

数理学科 春学期時間割

		1年生	2年生	3年生	4年生
月	1	数学演習 I (岩木・ 教務助教 4名)	現代数学基礎 BI (林(孝))	代数学要論 I (伊藤(由))	代数学続論 (松本)
	2				
	3				確率論 III (中島)
	4				
火	1			解析学要論 I (寺澤)	解析学続論 (山上)
	2				
	3		数学演習 III・IV (浜中・笹原・久本)		幾何学 III (糸)
	4				数理科学展望 III (大平・カリグ・ヘッセルホルト)
水	1		現代数学基礎 CI (吉田)	解析学要論 II (植田)	数理解析・計算機数学 IV (木村)
	2				
	3				
	4				
木	1			幾何学要論 I (森吉)	幾何学続論 (川村)
	2				
	3		複素関数論 (伊師) 全学教育科目	数学演習 VII・VIII (柳田・佐藤)	代数学 III (ヘッセルホルト)
	4				解析学 IV (杉本)
金	1			数学演習 IX・X (鈴木(悠)・ 伊藤(敦))	
	2				数理物理学 III (永尾)
	3		現代数学基礎 AI (中西)	応用数理 I (田中・我妻・佐藤)	
	4				

数理学科 秋学期時間割

		1年生	2年生	3年生	4年生
月	1		現代数学基礎 A II (松尾)	数理科学展望 I (山上・永尾・宇沢)	
	2				数理物理学IV (浜中)
	3			現代数学研究 (岡田)	幾何学IV (小林)
	4				
火	1			代数学要論 II (金銅)	
	2		確率・統計基礎 (大平)		確率論IV (吉田)
	3		現代数学基礎 B II (伊山)		数理科学展望IV (古庄・柳田・ハッハマン)
	4				
水	1		現代数学基礎 C II (杉本)	数理解析・ 計算機数学 I (久保・笹原)	数理解析・計算機数学 II (ガリグ)
	2	数学演習 II (久本 ・寺澤・教務助教 4名)			
	3				
	4				
木	1		数学演習 V・VI (中島・大久保・ 松本(拓)/藤野)	幾何学要論 II (太田)	代数学IV (柳田)
	2				解析学 II (寺澤)
	3	数学展望 II (中西)	現代数学基礎 C III (糸)		
	4				
金	1			解析学要論 III (加藤)	
	2				
	3		計算機数学基礎 (内藤・佐藤)	応用数理 II (梅田・織田・中村)	
	4				

(4) 授業時間割 (大学院)

		4年生と共通		大学院のみ
春 学 期	月	1	代数学概論Ⅰ (松本)	
		2		
		3	確率論概論Ⅲ (中島)	
		4		
	火	1	解析学概論Ⅰ (山上)	
		2		
		3	幾何学概論Ⅲ (糸)	
		4	数理科学展望Ⅰ (大平・ガリグ・ヘッセルホルト)	
	水	1	数理解析・計算機数学概論Ⅳ (木村)	数理科学特論Ⅱ (リジャーレ)
		2		
		3		予備テスト基礎演習 (松尾・中島)
		4		
	木	1	幾何学概論Ⅰ (川村)	
		2		
		3	代数学概論Ⅲ (ヘッセルホルト)	
		4	解析学概論Ⅳ (杉本)	
	金	1		
		2	数理物理学概論Ⅲ (永尾)	数理科学特論Ⅳ (デモネ)
		3	社会数理概論Ⅰ	
		4	(田中・我妻・佐藤)	

		4年生と共通		大学院のみ
秋 学 期	月	1		
		2	数理物理学概論Ⅳ (浜中)	
		3	幾何学概論Ⅵ (小林)	
		4		
	火	1		
		2	確率論概論Ⅳ (吉田)	
		3	数理科学展望Ⅱ (古庄・柳田・ハッハマン)	
		4		
	水	1	数理解析・計算機数学概論Ⅱ (ガリグ)	
		2		
		3		
		4		
	木	1	代数学概論Ⅳ (柳田)	
		2	解析学概論Ⅲ (寺澤)	
		3		数理科学特論Ⅴ (ダルポ)
		4		
	金	1		
		2		
		3	社会数理概論Ⅱ	
		4	(梅田・織田・中村)	

VI-C 就職・同窓会委員会

現在の多元数理科学研究科、数理学科における就職関連の行事は、3月に開催される企業セミナーとミニ同窓会、そして6月に開催される「働くこと&インターンシップセミナー・数学教室ミニ同窓会」があり、OB・OG多数にご参加いただく当研究科独自の行事である。3月開催の企業セミナーとミニ同窓会は26年度まで12月に開催されていたものである。19年度までは2月に開催されていた企業セミナーを12月に開催されるようになった経緯として、19年度3月に委員長が同窓の先輩方と懇談の機会をもち、活動方針、開催時期を決めた。その際にとくに問題になったのは、企業セミナー、ミニ同窓会への学生の出席率の低さであった。従来通り2月開催では、学生はすでにどの会社に行くか、ターゲットをしぼって活動しており、また講義期間中ではないため出席率が低くなると考えられた。11月または12月開催を検討して、12月開催に変更し、その結果参加者も増えた。志望会社をしぼっていない段階でいろいろな会社の説明をきき、その後の懇親会で先輩方にリラックスした状況でさまざまな質問ができるなど参加者にとっても好評である。

平成25年9月13日に日本経済団体連合会より、「採用選考に関する指針」が公表され、「インターネット等を通じた不特定多数向けの情報発信以外の広報活動については、卒業・終了学年も入る直前の3月1日以降に開始する」と明記されているので、企業セミナー等は3月1日以降開催する、という方針に変更した。30年度は3月1日に開催した。しかしながら、学生の参加者数は依然減少気味である。ミニ同窓会は学生が就職活動にはいる前に、実際に社会で活躍されている先輩方と話しをすることにより、視野を広げるために重要な役割を果たしており、参加した学生からの評価が高いだけに残念である。学生に対するキャリア教育の一環として、6月に「働くこと&インターンシップセミナー・数学教室ミニ同窓会」を22年度より開催しているが、学生達にキャリアをどのように考え、自分にあった進路を実際に自分たちの前を歩んでいる諸先輩方の体験を聞き、いろいろな質問を投げかける事によって探ることの重要性を強調する必要があるように思われる。

数学の博士の学生の会社への就職は米国、ヨーロッパ、中国では一般的であるが、日本ではまだめづらしい。会社とのインターンシップなどは少しずつ参加者が増えてきている。活躍しているのは大変喜ばしい。このように博士の採用に積極的な会社も増えているので数年したら博士の学生の就職の状況は劇的に変化する可能性がある。理学部への求人の特徴として、リーマンショック直後も修士卒が欲しいという会社が多い。ある経営者の言葉として、「博士を取るのには提案力に期待して、修士を取るのはその提案をサポートするために論文などを読む力に期待してである。経営者としての役割はそのような人たちと学部卒の人たちの仕事を創り出すことだ」があるが、これから日本が産業転換していく上で重要な役割を博士・修士の人材が果たして行く可能性を示唆している。多元数理科学研究科として、修士、博士といった高度な専門性を持つ社会で活躍できる人材を養成することは急務であると考えられる。年1回の「アクチュアリー同窓会」も定着してきており、7月に東京で開催された。

同窓生の尽力による企業との連携による講義も好評である。会社説明会、ミニ同窓会等同窓生の方々のご協力に深く感謝する次第である。

企業との連携による講義

統計・情報数理概論 I

春学期 坂本 嘉輝 アカラックス株式会社 代表取締役

統計・情報数理概論 II

春学期 坪野 剛司 一般社団法人 年金総合研究所 理事長
渡部 善平 エーオンヒューイットジャパン株式会社 シニアコンサルタント
清水 信広 全国生活協同組合連合会 常勤監事

社会数理概論 I

春学期 田中 祐一 トヨタファイナンス株式会社 主幹
我妻 三佳 日本アイ・ビー・エム株式会社グローバルビジネスサービス 執行役員
盛田 洋光 株式会社ぺあのしすてむ 取締役

社会数理概論 II

秋学期 織田 一彰 スローガン株式会社 ExecutiveFellow & 共同創業者
中村 俊之 株式会社日立製作所 サービスデザイン研究部 主任デザイナー
梅田 英輝 アリッツ株式会社 代表取締役社長

応用数理特別講義 I

春学期 森 健策 名古屋大学大学院情報学研究科 教授
畔上 秀幸 名古屋大学大学院情報学研究科 教授
時田 恵一郎 名古屋大学大学院情報学研究科 教授
渡部 善平 エーオンヒューイットジャパン株式会社 シニアコンサルタント
小島 広樹 三菱 UFJ モルガンスタンレー証券株式会社 クオンツ & 先端ソリューション開発課 課長代理

応用数理特別講義 II

秋学期 佐藤 淳 名古屋工業大学 大学院情報工学専攻 教授
丹羽 智彦 トヨタ自動車株式会社 シャシー先行開発部 主幹
松井 一 豊田工業大学工学部 准教授
山田 博司 NTT データ先端技術株式会社 ソリューション事業
SDI ソリューションビジネスユニット プリンシパル
徳毛 孝裕 株式会社NTTドコモ 東海支社 法人営業部 部長